

ワークショップ方式によるダム建設に伴う生活再建地とその周辺的环境整備に関する検証  
—広島県三良坂町に建設される灰塚ダムの場合

正会員

石丸紀興

|         |      |       |
|---------|------|-------|
| ワークショップ | 灰塚ダム | 集落再建地 |
| 集落計画    | 環境整備 | 魅力的景観 |

## はじめに

広島県双三郡三良坂町<sup>1</sup>における灰塚ダム<sup>2</sup>建設に伴って集落「のぞみが丘」は、昭和41年に起業側から地元住民に立入調査を申し入れて以来37年間という長い建設反対闘争と建設容認、集落整備という対応を経て実現したものである。ダムそのものは現在なお建設中で、平成15年3月8日には国土交通省による「灰塚ダム定礎式」が挙行され、今後さらに4年にわたって建設が続行されることになっている。ダム建設で立ち退きを迫られた住民の多くが生活再建地へ居住先を移し、平成5年10月に開村式が行われて、既にここでの生活が始まっている。

本稿は、のぞみが丘での生活が一応の安定期に入った開村後8年余を経た平成14年3月23日に、三良坂町農業活性化センター（略称活性化センター、実質的なのぞみが丘における公民館）において住民と小学生約30人によって実施されたワークショップをまとめたものである。

## 1. ワークショップの枠組み

ワークショップの実施は筆者の提案であるが、この生活再建地の計画と建設過程に関わってきた立場から、この整備がどのような問題を抱えており、どのような水準であるかを明確にさせる責務を感じての申し出であった。地元住民は「灰塚ダム建設対策同盟会」を中心とし、三良坂町の支援のもとに実施することとなった。

ワークショップは、2つのグループに分かれて実施した。その場に集まった約30人の参加者に対して、Aグループには生活再建地とその周辺にどのような問題があるか、あるいはなお整備の課題が残っているかというテーマを、Bグループには生活再建地とその周辺における魅力はなにかというテーマを、予告なしでその場で提示し、希望によりAグループとBグループに分け、若干の人数調整をして実施した。ワークショップの運営はそれぞれファシリテーターとしてAグループを筆者が、Bグループを三良坂町企画課職員が担当した。

最初にワークショップの意味、歴史的な経緯、その役割と限界・注意点などについて主催者側から解説し、今回のワークショップの意図について提案、同意を得て次のステップに移行した。まず、30分程度を自由に考えその内容を簡潔にラベルに書き込み、場所の明確な場合はそこに貼り込み、特定の場所と関連がない場合は全体的

な内容の場所に貼り込む。同一場所で同一内容のラベルができて構わず貼り込む。ある程度の蓄積ができた段階で、それぞれのラベルを記入した人からなぜそのような指摘をしたのか等を発表し、さらに追加や修正を加え、全体として特徴的あるいは特異な内容、数多い指摘された内容を把握する方向で検討する。その場合、ファシリテーターは一定の見識をもって全体的なまとめを実施する。

## 2. ワークショップ実施によるAグループの結果

Aグループにおいては生活再建地を中心とした2500分の1地図2枚を張り合わせ、そこにラベルを貼り込んだ（写真1）。それらすべてを図化できないので主なもの、特徴的なものだけを採用すると図1のようになった。

Aグループのまとめとして、①当初の計画通りになっていないという問題、②当初計画に問題があったという問題、③社会情勢の変化があったという問題、④新たな課題が生じているという問題、に分けられよう。①は特に、当初提案があった高齢者福祉団地が建設されていない、せせらぎの水が少ない、集会所がよく機能していない、公園や学校、プールなどの利用に問題あり、等である。②は学校が遠い、子供と地域との関係、住宅宅地の作り方、宅地段差、風が強い、等である。③は、交通量、車のスピード、事故、騒音問題等交通に関する問題と燃やすこと、堆肥化等のゴミ問題である。④は、川を深く、せせらぎの音が欲しい、広いところ、自由に使えるところが欲しい、植栽が寂しい、等である。さらに、人口減少、生徒減少ということ地域全体のバックグラウンド・背景に関する問題であった。これらの問題は、本来誰が

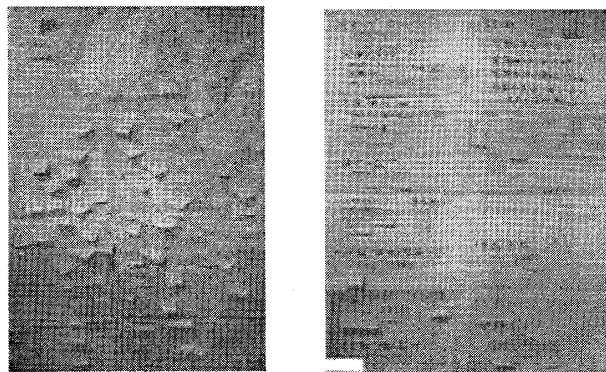


写真1-2 Aグループ貼り込みラベルとBグループまとめ

Inspection by Method of Workshop System on Environmental Condition of Rebuilding Living District and its Environs where had been realized following  
by Dam Construction - In a Case of Haizuka Dam under Construction in Mirasaka-cho Hiroshima Prefecture

ISHIMARU Norioki



図1 Aグループで出された主な指摘

どのように対処すべきか、様々な方向へ展開されるべきであるが、同時にどのように対処できるのかということも多くの問題がある。

### 3. ワークショップ実施によるBグループの結果

ここでは、多くの項目が提起され予想外の結果となった。順不同でまとめてみると、①せせらぎ河川（杉谷川）、ホテルに関すること、②灰塚小学校に関すること、③宗像神社や寺に関すること、④鎮守の森に関すること、⑤活性化センター、集会所に関すること、⑥水田、耕地の整備に関すること、⑦大谷に関すること、⑧木村家、旗山家に関すること、⑨眺め、風景に関すること、⑩木や植物に関すること、⑪集落全般、⑫総論、⑬問題点、となった（写真2）。その内容は例えば、①のせせらぎ河川（杉谷川）に関しては水量が少ないなどいくつかの問題点も指摘されているが、一方ではホテルが出現し、生物が少しずつではあるが根付いてきて、この川の魅力を高めるようになってきた。その背景として住民たちの河川に対する日常的な対応が存在するからである。②の小学校についても、位置が遠い等の指摘もあるが、設備がよい、池が併設された等の指摘とともに地域に存在する一つの小学校としての価値が認められている。③の神社に関しては神社の位置、神社と正面の道路についての評価が高く、墓地付近の植栽やメダカオタマジャクシ等の生物の存在が魅力の指摘を増大させている。④鎮守の森に対しても「年ごとに良くなっている」「神社の裏山の木が揺れているのがよい」など評価が高い。⑤活性化センターは広場を備えていることが評価されている。⑥～⑧の詳細は省くが、水田が整備されていること、古民家の保存がなされていること、災害の不安がないこと、集落のまとまりができたこと、等が指摘されている。そして最も多彩で豊かに表現されているのが⑨の眺め、景観に関するところで、「星空が広くみられて美しい」「小学校からみる夕日が美しい」「中秋の名月がすばらしい」「集落全体が

美しい」「集落からみて高台にある小学校は地域のシンボリックな美しさがある」「桃源郷のようだ」等々、高い評価がなされている。これまで起業者側と折衝しながら整備を進めてきて、いわばスキを見せないように対応してきた住民が、ほっと振り返ったとき、そこにすばらしい景観を実感していたということであろう。このような結果はワークショップ参加者にも意外であつたらしく、感動を持って受け取られた。

### 4. まとめにかえて

ワークショップによって、地域の問題点や整備課題を導き出す手法とするというだけでなく、地域の魅力の発見、確認ということについても極めて有効な方法であることが明らかとなった。また、今回のワークショップによって、地元住民においても思わぬ成り行きとなった。生活再建地がこのように多くの魅力が存在するのか、という思いを噛みしめることとなったのである。もちろん、魅力を多く指摘されたとはいえ、手放しで賞賛しているというわけではない。魅力を増そうとすればいろいろな課題があるし、魅力を感じなくさせる場合と紙一重であり、またその背景として平凡な生活空間が広がっている証拠でもある。すなわち、地域の魅力を引き出そうとするならば、魅力の指摘だけでお仕舞いというわけではなく、むしろ課題を明らかにさせる意味を持っているのである。

一方、多くの問題点の指摘があり、今後の整備課題が提起されている。今後のさらなる高齢化、少子化傾向を控え、この地域のあり方は決して楽観を許されない。このようなことでの取り組みを少しも手が抜けないということを示していることを確認すべきである。ただしこれらの問題は、ダムによる生活再建地独特の問題であるよりも、周辺地域とも連携して取り組むべき問題であることも基本的認識として重要である。

### 謝辞

ワークショップにおいて灰塚地区の生活再建地に居住されている方々、対策同盟会の役員の方々、三良坂町関係職員から協力を得たことを記して感謝する次第である。

### 脚注：

吉舎\*1 備北と呼ばれ地域で三次市の南東約 km に位置する。

\*2 灰塚ダムは江の川水系上下川の三良坂町仁賀地区に総貯水量 52,100,000m<sup>3</sup>、湛水面積 3.5km<sup>2</sup>（湛水区域は三良坂、吉舎、総領町にまたがる）という規模の重力コンクリートダムで、平成 12 年 11 月に荒縮切り転流工トンネル水流付け替え、7 月ダムサイトの上下流仮縮切り、13 年 4 月からダム本体基礎掘削、10 月からダム本体のコンクリート打設を開始し、15 年 3 月 8 日定礎式を実施し、18 年度完成を目標としている（総事業費約 1800 億円）。

\*3 灰塚生活再建地の他に総領町内には稲草生活再建地、町内には安田生活再建地が建設されている。